みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　4月　22日　　NO.8

京都

かつて、担任を持たせてもらったときに発行した「学級通信」を見つけ出して、参考にしながら、この大変な時期をみんなで乗り切るためにぼつぼつと書いています。

少しでも気休めになれば。

平成がはじまったころ、一人で京都に下宿していました。下宿といっても家の一階を全部借りる感じで。京間の八畳押入付き、庭付き、と聞けば、いい雰囲気がしますが、「築・戦前」で雪見障子が外との唯一の境界。真冬などは、命がけの寒さとの戦いでした。

祇園祭のころ、庭の草むしりをさぼっていますと、小指の爪ほどの黒い虫が何千匹とわが庭で生を受け、わが下宿の電灯目指して飛んできました。壁や天井は虫で真っ黒。床を歩けば、虫を踏んでしゃりしゃり音がするほど。プロペラのように羽を回して飛ぶ緑色の虫との出会いもこの部屋で。いつしか、この部屋を「ドキドキ昆虫ランド」と呼んだりして。

大正生まれの大家さんとの出会いも強烈でした。かつては、お嬢さんだったらしく、英語フランス語がペラペラ。ただ、当時は歯も抜けて、何を発音しているのか不明な場合も多かった。いつもクロと呼ばれる犬を連れて。この犬、生涯洗われることがなくて‥‥。

と話が永遠に続きます。

京都の凄いところは、神社仏閣は私が過ごした三十年前の風景と何も変わらないこと。また、広沢の池や嵐山周辺もしかり。

年に一回は、懐かしさの余り、昔暮らしたところを探索しています。

わが下宿は、つぶされて新しい建物に代わっています。ただ、一方通行を示す道路標識は、当時のまま同じ方向を示して立っています。